第 42 講　第一次世界大戦と日本

1　第一次世界大戦

①背景

A　**ドイツ（３Ｂ政策）**と**イギリス（３Ｃ政策）**の対立

あ　**三国同盟**（1882年）

ドイツ・オーストリア・イタリア

い　**三国協商**（1907年）

イギリス・フランス・ロシア

B　**バルカン半島（"ヨーロッパの火薬庫"）**問題

あ　パン＝ゲルマン主義とパン＝スラブ主義の対立

☆オーストリアとロシアの対立。

い　第一次・第二次バルカン戦争（1912年～13年）

☆ロシアを後ろ盾（だて）とするセルビアに不満が残る。

---

②開戦

A　発端

1914年６月　**サライエヴォ事件**

☆セルビア人青年によるオーストリア帝位継承者夫妻暗殺事件。

７月　オーストリアがセルビアに宣戦布告，第一次世界大戦が勃発。

B　参戦

あ　**同盟国**

ドイツ・オーストリア＝ハンガリー・ブルガリア・オスマン帝国の４カ国

☆イタリアは三国同盟を脱退，1915年に連合国側へ。

い　**連合国**

イギリス・フランス・ロシアなど27カ国

☆**日本**（14年），**イタリア**（15年），**アメリカ**・中華民国（17年）が参戦。

この大戦では，飛行機・戦車・潜水艦・機関銃や非人道的（ひじんどうてき）な毒ガスも使用されて戦禍（せんか）を広げるとともに，各国の国民や産業が総動員され，長期間にわたる総力戦となった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈 ***Note*** 〉

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2　中国大陸への進出

①日本の参戦（1914年）⇒元老井上馨（かおるいわ）曰く“大正新時代の天佑（てんゆう）”

A　理由

あ　**名目**

日英同盟協約を結ぶイギリスの援護（えんご）

い　**実情**

中国大陸における権益拡大をはかる

B　**参戦**

1914年８月，**ドイツに宣戦布告**

☆第二次大隈重信内閣（加藤高明（たかあき）外相）

C　経過

あ　**陸軍**

山東半島の**膠州湾（こうしゅうわん）**（中心都市＝**青島（チンタオ）**）を占領

い　**海軍**

赤道以北のドイツ領南洋諸島の一部を占領

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

②二十一カ条の要求（1915年）

A　目的

中国における権益の拡大

B　内容（５号**21カ条**）

第１号　**山東省のドイツ権益接収（せっしゅう）の承認**

第２号　**旅順・大連・南満州鉄道**・安奉（あんぽう）鉄道の**租借期限を99年延長，南満州・東部内蒙古（うちもうこ）の権益の承認**。

第３号　**漢冶萍公司（かんやひょうコンス）の日中共同経営**

第４号　中国沿岸の他国への不割譲（ふかつじょう）

第５号　中華民国政府への日本人顧問〔政治・財政・軍事〕採用，警察の日中合同，福建省の他国への不割譲（再確認）など。

⇒あくまでも希望条項・秘密交渉

☆**第５号は非難がとくに強く，大部分を削除**。

C　調印

中国はこれを内外に暴露してその不当を訴えたが，第二次大隈重信内閣は，軍事力を背景に**袁世凱（えんせいがい）**政府に対して**最後通牒（さいごつうちょう）**を発し，大部分を認めさせる。

D　影響

あ　中華民国の排日運動が激化⇒**５月９日**を**国恥（こくち）記念日**とする

い　日本が国際非難を浴びる　⇒列強との調整へ

☆国内でも元老の反対が強く，のち内閣は総辞職。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③列強との調整

A　**第四次日露協約〔日露同盟〕(1916年)**

中国全土における日露両国の特殊利益擁護(ようご)を相互に確認。秘密協約によりアメリカに対抗。

B　英国覚書(おぼえがき)　　　　　　　(1917年)

来たるべき講和会議での日本の要求(山東省・南洋諸島のドイツ権益・植民地の割譲(かつじょう))を承認⇒続いて仏・露とも同様の覚書を交わす。

C　**石井・ランシング協定　　(1917年)**

アメリカの参戦を契機に，特派大使**石井菊次郎**と国務長官**ランシング**との間で締結。

☆**中国の領土保全・門戸(もんこ)開放と，日本の満蒙(まんもう)における特殊権益を確認。**

D　帝政ロシアの崩壊　　　　　(1917年)⇒ソヴィエト政権の誕生

旧ロシア帝国が締結した秘密協定を全て公表・破棄(はき)

☆第四次日露協約を軸とする日本の布石(ふせき)は，根底から覆(くつがえ)されてしまった。

---

④西原借款(しゃっかん)(1917年～18年)

A　目的

日本に接近していた北方軍閥の**段祺瑞**(だんきずい)を援助することによって，中国での支配権伸長をはかる。

B　経過

寺内正毅首相は，私設秘書である**西原亀三**(にしはらかめぞう)を派遣。無担保で1億4500万の借款を与える。

☆中国を第一次世界大戦へ参戦させる(1917年)とともに，日本の軍事的指導下に置こうとした。

C　結果

寺内正毅内閣の崩壊とともに借款は中止されたが，大半は回収されず(1920年，段祺瑞が実権を失う)，**列強や中国民衆からは内戦激化の原因をつくったとして激しい**非難を浴び，完全な失敗に終わった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈*Note*〉

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

3　シベリアへの進出

①ロシア革命（1917年）

A　三月革命　〔二月革命〕

帝政ロシア〔ロマノフ王朝〕の崩壊，臨時政府とソヴィエト政権との二重政権となる。

B　十一月革命〔十月革命〕

レーニン・トロツキーを中心とする労働者・兵士による**社会主義革命**が起き，ソヴィエト政権が成立。

☆1918年，ドイツ・オーストリアと単独講和（ブレスト＝リトフスク条約）を結び，第一次世界大戦から離脱。旧ロシア帝国が結んだ秘密協定もすべて公表・破棄。

☆**1922年**，世界初の社会主義国家である**ソヴィエト社会主義共和国連邦**となる。

---

②シベリア出兵（1918年～22年）

A　目的

ロシア革命への干渉，東部シベリア・北満州への勢力拡大。

B　出兵

チェコスロバキア軍の救出を名目に，アメリカ・イギリス・フランスらと共同出兵。

C　経過

尼港（にこう）〔ニコライエフスク〕事件（1920年）が起きるなど，形勢は悪化。

☆この年には**北樺太（きたからふと）も占領**，領土的野心を疑われ列強の非難も高まる。

D　撤兵

戦費10億円・兵力７万2000人をつぎ込んだが，無意味のまま**1922年（加藤友三郎内閣）ようやく撤兵（てっぺい）を完了**。

☆**しかし，日ソ基本条約締結（1925年）まで，北樺太の占領は継続**。

E　影響

列強の日本への警戒心が強まる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈*Note*〉

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4　大戦景気（1915年～18〔19〕年）

①原因

A　**ヨーロッパにおける交戦国の生産力低下と需要増大**

☆ヨーロッパへの軍需品・日用品の大量輸出。

B　**アジア市場の独占**

☆アジア向け綿糸・綿布(めんぷ)輸出の伸張。

C　**アメリカの好景気**

☆アメリカ向け生糸(きいと)輸出の伸張。

---

②展開

A　**貿易**

あ　輸出が急増，**輸出超過（1915年～18年）**となる。

い　**11億円の債務国**（1914年）から**27億円の債権国**へ（1920年）。

☆日露戦争後の不況を脱出，しかし列国にならい**金輸出は禁止（1917年）**。

う　**成金(なりきん)**の登場

船成金(ふななりきん)・鉄成金など

☆その他，**台湾における砂糖・樟脳(しょうのう)取引**により神戸(こうべ)の**鈴木商店**が急成長。

B　海運・造船

あ　世界的な船舶(せんぱく)不足により，**造船業は英・米に次ぐ世界第3位**に躍進。

い　内田汽船・山下汽船などの船(ふな)成金が登場。

C　鉄鋼

あ　大戦勃発による世界的な鉄不足・造船業の躍進により発展。

い　官営八幡製鉄所の再拡張

う　**鞍山(あんざん)製鉄所**の設立（1918年，**南満州鉄道株式会社**）

☆朝鮮や満州にも資本輸出が行われ，民間会社の設立も進む。

え　鉄成金の登場

D　**化学**

ドイツからの輸入途絶により，薬品・染料(せんりょう)・肥料などの国産化が始まる。

E　**電力⇒水力発電の発達**

猪苗代(いなわしろ)水力発電所（福島県）～東京間の長距離送電に成功（1915年）。

☆電灯の地方普及，工業動力の電化が進む（1917年，蒸気力を逆転）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

F　繊維（せんい）

輸出が激増，のち中国への資本輸出も開始⇒**在華紡**（ざいかぼう）

☆生糸・絹織物⇒欧米向け　（とくにアメリカ）

綿糸・綿織物⇒アジア向け（とくに中国）

---

③結果

A　工業生産の躍進

あ　**工業生産額が農業生産額を追い越す（1919年）**

☆日本はアジア最大の工業国となる。

い　重化学工業の基礎が確立

う　**労働者数（とくに男子熟練工）の激増**

☆1919年には147万人＝大戦前の２倍以上に。

☆**しかし，労働者の実質賃金は低下（物価上昇率に賃金上昇率が追いつかず）。**

B　都市の発展

あ　都市に人口が集中

い　商業・サービス業の発展

☆都市中間層（＝サラリーマン）の輩出（はいしゅつ）。

う　四大工業地帯（京浜・阪神・中京・北九州）の形成

C　**資本の独占・集中傾向**⇒四大財閥・五大銀行

あ　**成金の出現と，物価高騰による民衆の生活苦。**

い　財閥による産業支配の確立。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第42講　確認テスト

1　「三国同盟」として不適切なものを一つ選べ。
①　ドイツ　②　オーストリア　③　イタリア　④　ブルガリア

2　「三国協商」として不適切なものを一つ選べ。
①　アメリカ　②　イギリス　③　フランス　④　ロシア

3　“ヨーロッパの火薬庫”とよばれた地域とは？
①　クリミア半島　②　バルカン半島
③　アルザス・ロレーヌ　④　チェコ・スロバキア

4　1914年，第一次世界大戦勃発の契機となったサライエヴォ事件を起こしたセルビア人青年は，何民族であったか？
①　ゲルマン民族　②　スラブ民族
③　ラテン民族　④　アラブ民族

5　大戦勃発に際し，これを“大正新時代の天佑”と喜んだ元老とは？
①　井上馨　②　山県有朋　③　松方正義　④　西園寺公望

6　日本が第一次世界大戦参戦の主たる口実とした協約とは？
①　第一次日英同盟協約　②　第三次日英同盟協約
③　第三次日露協約　④　日仏協約

7　陸軍がドイツ軍と戦い占領した，山東半島の中心的な港湾都市とは？
①　上海　②　南京　③　青島　④　済南

8　1915年，日本に二十一カ条の要求を突きつけられた中華民国最高権力者とは？
①　孫文　②　袁世凱　③　段祺瑞　④　汪兆銘〔精衛〕

9　二十一カ条の要求の大半を受け入れた，中国の“国恥記念日”とは？
①　5月9日　②　6月4日　③　7月7日　④　9月18日

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

10　1917 年，ワシントンで締結された日米間の協定とは？

①　桂・ハリマン協定　　②　桂・タフト協定

③　日米紳士協定　　④　石井・ランシング協定

11　1917 年～ 18 年，私設秘書西原亀三を通じ，中華民国の段祺瑞に巨額の借款を与えた首相とは？

①　寺内正毅　　②　原敬　　③　高橋是清　　④　加藤友三郎

12　1917 年，トロツキーらとロシア革命を起こした中心人物とは？

①　レーニン　　②　スターリン

③　フルシチョフ　　④　ブレジネフ

13　台湾における砂糖・樟脳取引で躍進した，番頭金子直吉が率いる神戸の商社とは？

①　三井物産　　②　三菱商事　　③　鈴木商店　　④　住友商事

14　大戦景気の最中，化学工業はどの国からの輸入が途絶したことにより発達したか？

①　イギリス　　②　ロシア　　③　アメリカ　　④　ドイツ

15　工業生産額が農業生産額を追い越し，日本がアジア最大の工業国となった年は？

①　1915 年　　②　1917 年　　③　1919 年　　④　1920 年

解答

1	④	2	①	3	②	4	②	5	①
6	②	7	③	8	②	9	①	10	④
11	①	12	①	13	③	14	④	15	③

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。